

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No.

26

2010年10月発行

障害児の自立に向けての社会生活体験事業

【独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業】

社会生活体験プログラム I

「しごと」ってどんなん？ ～ しごと体験 ～

障害をもつ中高生を対象に、自立に向けての体験を広げることを目的に実施している社会生活体験事業では、8月から9月にかけて、「しごと」体験の活動をしました。

8月の上旬に、保護者も一緒に（結果的に、参加者は保護者の方が多かったのですが）、障害者の働くお店や事業所の見学会を行ないました。箕面市に出かけて行き、様々な事業所を駆け足で回り、地域の中で働いていくことを学んできました。

8月中旬からは、今市商店街の空き店舗を利用した、旭区民の交流の場「あさひあったかきち」において、パンの販売、喫茶やフリーマーケットを行いました。パンの販売ではパン作りも体験し、自分の作ったパンを売る喜びも得られました。喫茶は、「注文を取って飲み物を出す・片づける」だけの内容でしたが、商店街で広報チラシを配ったり、注文された飲み物を準備してお菓子をつけて出したり、子どもたちもボランティアも緊張しながらの活動でした。フリーマーケットでは、値段つけの作業をそれぞれが工夫して取り組み、販売日には、商品を並べたり、呼び込みをしたり、お金のやり取りをしたりと、子どもたちとボランティアが力を合わせて売りました。売上からお給料を出し、働いて報酬を得ることも伝えました。

活動日には、毎回、青少年指導員の方が一緒に活動を見守ってくださいました。子どもたちと一緒に呼び込みや販売をしてくださった指導員さんもいらっしゃいました。また、老人クラブ連合会の方々が、寄りあいやスーパーボールすくいを開催して下さって多くの来客がありました。「あさひあったかきち」を地域の方々に広く知っていただく機会にもなりました。たくさんの交流があり、つながることの大切さを再確認しました。

送迎はできる限り学生ボランティアが行うようにしました。違うバスに乗って迷ってしまった子どもとボランティアもいました。失敗も大切な体験です。子どもたちは、親や教師ではない、年齢の近い大学生ボランティアと一緒に日常とは違う体験をしました。

社会生活体験プログラムⅠ「しごとってどんなん？」

見学会



日 時：2010年8月5日(木)11:00~17:00

行き先：箕面市のさまざまな店舗や事業所、福祉施設

案内とお話：河野秀忠氏（「そよ風のようにまちに出よう」編集長）

参加者：子ども3名、保護者7名、ヘルパー1名、スタッフ1名

旭区在宅サービスセンターに集合し、福祉タクシーと乗用車で、箕面に向けて出発しました。箕面市では、(財)箕面市障害者事業団、豊能障害者労働センターや関連施設、10カ所以上を見学して回りました。最初に、食堂「キャベツ畑」で昼食をとりながら自己紹介、その後、リサイクルショップ数軒、花鉢屋、パン屋、そして、就労支援センターやメイプルホールなどの施設にも立ち寄って、最後は、みのおライフプラザで、案内をしていただいた河野さんのお話を聞いて帰路につきました。暑い熱い一日でした。

就労支援センターやメイプルホールやライフプラザでは、様々な事業所がローテーションで出店をしており、出かけて行って売るということが頻繁に行われていました。売り上げも伸びますし、地域の人達とふれあうこともできます。障害をもった人が、あちこちで自然体で働いておられたのが印象的でした。大阪市と箕面市では制度が違いますが、地域に根ざして、地域の中で働いて報酬を得ていくことを考える機会となりました。「わが子運動をしていたのではダメだよ」という、河野さんの言葉は保護者達にどう伝わったでしょう？ どの親も、わが子さえ良ければいいと思っているわけではないでしょう。けれど、わが子の問題を個人的な問題として片付けてしまうのではなく、社会の問題として考え、誰もが地域で生きていくことができるように働きかけていかなければ、社会は変わらないということを忘れてはなりません。働く場の見学だけではなく、参加した保護者にとっては、地域で暮らしていくことや自立することについて考える機会になったと思います。

<参加者の感想から>

- ・ 各々の活動場所に少人数で仕事をされていたので、運営・サポートもしやすいと思った。また、業種（食堂、リサイクル、グリーンなど）も多く、ある程度、本人に見合った仕事ができるかなあと考えた。環境もよく、地域に溶け込んでいるように見えた。
- ・ 今日、何軒か見学させていただいて、あれだけのスペースのお店だと「ちょっとのぞいてみようか」って思えるディスプレイが出来て、それがまた収益につながるんじゃないかな～と思いました。公共の建物の中のオープンスペースとか、スーパーの隣に…とか人が集まる場所へ、こちらから「出ていく」というものなるほどなあ…でした。



そして、一つひとつ働いている人達の人数が少ないこともいいですね。長時間、限られた空間で、多人数で居ることは私達でもしんどいなあと感じることもあると思うので、「なるほど！」大事なことなんだなあと感じました。最後の「親は邪魔になる」って言葉は耳が痛いです。息子は、することがわからない事が一番しんどいのですが、誰か声をかけてもらわないとやりたくても手を出せない…ということが多いので、まず「何かやらせてやってくれ」と口も手も出してしまいそうです(笑)。

- ・ いつかは親元からは自立できたら…と、思ってはいますが、なかなか実現できると予想しにくいのが現実です。実際、生活されてるのを見せていただいて刺激を受けました。お店などの数の多さに驚きました。作業所などでは一カ所に障害のある方がたくさんいらっしゃるようなイメージを勝手に持ってしまっていたのですが、どのお店も少人数で、働きやすそうでしたし、お客さんも入りやすいだろうなあと思いました。働く場所づくりには アイディアや工夫、協力者が不可欠だとわかってはいたつもりですが、考えさせられました。賃金保障に感心しきりです。
- ・ 自治体によって制度が違うとはいえ、障害者の就労の視点の違いを感じ、多くを学ぶことができました。様々な事業所がつながりあって全体で収益を上げていくこと、待っているのではなく出て行く方式、地域に働きかけ続けること、それは日々エネルギーがいることですが、「制度が違うからできる」だけではなく、目のつけ所、工夫の仕方、地域を巻き込んでいくことがとても大切だと感じました。また、一カ所にたくさん集って「日中活動」をすることが目的なのではなく、地域の中で人とかかわりながら収入を得ていくことが目的だと、改めて考えました。「できる・できない」ではなく、そこに「その人」がいて、それが「仕事(やりがい&収入)」になる方法を考えていかなければと思いました。箕面は30年かかってここまで来たとうかがいました。長い時間をかけなければできないと思いますが、できるところから一步一步積み重ねていくしかないと思いました。



社会生活体験プログラムⅠ「しごとってどんなん？」 しごとと体験しよう！



活動日：2010年8月16日(月)～8月25日(水) 7日間

パン作り・パン販売・喫茶

2010年9月18日(土),9月25日(土) フリーマーケット

場 所：あさひあったかきち(パン販売・喫茶・フリマ)

あかずきんちゃんチビッコ(パン作り)

参加者：子ども のべ15名、学生ボランティア のべ18名

協 力：「あさひあったかきち」運営会議、あかずきんちゃんチビッコ、

青少年指導員 のべ7名、旭区老人クラブ連合会のみなさま

8月16日、17日、18日、20日、21日、23日、25日の7日間、障害をもつ子どもたちがボランティアとともに、パン作りやパンの販売、喫茶の体験をしました。

9月18日にはフリーマーケットの準備、25日にはフリーマーケットをしました。それぞれの子どもにあった活動ができるようにワークシートを作成して、活動日にしたいことを書き、活動終了後にボランティアが振り返りを書くようにしました。

パン作りは、「あさひあったかきち」の近くの「あかずきんちゃんチビッコ」で行いました。エプロンをつけてやる気満々の子どもたち。なかなか難しい作業でしたが、真剣に取り組んでいました。おいしそうなパンが焼けて、お昼ご飯に試食をして、「あさひあったかきち」へと売りに行きました。「やきたてのパンですよ～」、自分の作ったパンを買ってもらうのは嬉しかったようです。でも、暑くて、後半はバテ気味でした。

喫茶は、「あさひあったかきち」が無料のお茶とコーヒーを提供していることもあり、お金のやり取りはせず、注文をとって飲み物を出すだけにしました。多くの来客があるようにと、最初に、今市商店街や近くの千林商店街でチラシを配りました。学生ボランティアも子どもたちも初体験で、最初は通行人にチラシを渡すのをためらっていました。なかなかチラシを受け取ってもらえず、「心が折れそうでした」と学生ボランティア。アイスコーヒーをメニューに加え、飲み物はお菓子付きにして、宣伝をしました。うまく注文が取れない子どものためにメニューを作って、手指して注文できるようにしてみました。飲み物に付けるお菓子を欲しがる子どもに「これはお客さんのだから食べてはダメ」と説明をし、子どもはシブシブ納得をして活動しているのに、お客さんが出されたお菓子を子どもに与えてしまう場面もあり、これには困りました。同じ場所で、パン販売や喫茶と、日によって異なる活動をしたので、活動の始めに困惑する子どももいました。フリーマーケットは、人とかかわると同時に、お金のことを学ぶ場でもありました。〇シールに10、50、100と書いて硬貨にみたくて値札と一緒に貼りましたが、お客さんの対応におわれて、思うように「お金の勉強」ができませんでした。

初めての取り組みに試行錯誤をし、子どもそれぞれにあった活動がなかなか充実できず、スタッフは、日々、反省ばかりでした。元気な子どもたちやボランティア、そして、地域の役員さんたちや老人クラブの方々に助けられて活動することができました。反省点を振り返り、来年は、「職場」で「しごと」体験ができるようにと思っています。

<子どもの感想>

昨日、旭区へボランティアの人と行って、パンを作りました。はじめに、卵の黄身と白身をわけました。牛乳と塩と砂糖を入れました。そして混ぜました。生地を、銀色で細長くて丸い入れ物に入れました。それをオーブンに入れました。あまくていいにおいでした。30分ぐらい焼きました。ガラスをのぞいたら、茶色になっていました。できてよかったと思いました。熱いので、出して冷やしました。1時間冷やしました。おばちゃんが「食べてみ」と言ったので、食べました。あまくてふんわりとしてとてもおいしかったです。

冷ましてから、ほうちょうで切りました。ボランティアの人とおばちゃんが切りました。袋の口を機械で閉じました。それをキラキラした糸でくくりました。

それから冷たいコーヒーと熱いコーヒーを入れて、おばちゃんたちに運びました。帰るときに、ケーキをボランティアの人に配りました。

アイスクリームを食べました。おいしかったです。

<保護者へのアンケートから>

- ・ 普段見られない子どもの行動を知ることができた（ボランティアやスタッフからの報告で）。
- ・ 親の考えの枠にはめ込んではいけなさと気づかされた。
- ・ 周りの方からのアドバイス（子どもに対して、接客の態度など）があり、ありがたかった。
- ・ 親が思っているよりも、仕事（自分のすること）を理解して参加できたので良かった。また、ボランティアや周りの人とのかわりがスムーズにもてた。パン作りの手順をもう少し考えて行えばよかった。

<ボランティアの感想から>

- ・ ボランティア活動に参加するのは初めてだったので、最初は少し不安だったけど、みんな良い人だったし、とても楽しかったので、時間が過ぎるのがとても速く感じました。パン作りをするのは初めてで、とても楽しかったです。初日は子どもと何を話せばいいのかわからなかったけれど、だんだん慣れてきて、送迎の時も楽しく話ができるようになりました。



- ・フリーマーケットの準備は、思ったより時間のかかる作業でした。その頑張りを無駄にしないように、当日は気合を入れて頑張りました。パン作り、パン販売、フリーマーケットの活動に参加しましたが、自分自身にも学ぶことが多く、貴重な体験をさせていただきました。次は、「クッキング」に参加します。早くも楽しみです。
- ・子どもとコミュニケーションをとるのが難しかったが、一言一言に反応をしてくれました。最終日のフリーマーケットでは、みんな、自分の「しごと」ができていたと思いました。お客さんが来たら動いて、お客さんが途切れたら、良い意味で息抜きをしていたと思います。活動を通して、自分自身、ほうぷの子どもたちと仲良くなることができ、良い体験ができたと感じます。子どもたちが、この体験を通して「しごと」の楽しさ、大切さ、難しさを感じてくれればいいなと思いました。
- ・コミュニケーションをとるのが難しかったですが、喫茶の時に一緒に活動したHくんは、『やる』という意味を見せてくれたり、「したい」と言ってくれました。コーヒーを出す作業を「パス!」と言ったところは最高でした。また、フリーマーケットの時に一緒に活動したNさんは言葉は使えませんが、『あれを取ってほしい』とか合図をくれたので、何をすればよいか良くわかりました。値段つけのシールをしっかりと貼ってくれました。
- ・フリーマーケットの準備と当日に参加しました。値段つけをした商品が売れていくのが見れて嬉しかったです。子どもとコミュニケーションをとるために、相手の反応をよく見ることが大切だと思いました。みんなが笑顔でニコニコと笑ってくれていると楽しくて、良い空気をいかに作るかということも大切だと思いました。
- ・パン作り、パン販売、フリーマーケットに参加しました。子どもたちだけでなく、大学生である自分も、人にももの売る難しさを身をもって知りました。特に、チラシ配りが思うようにできなかつたり、パンが売れなかつたりした時間はくじけそうになりました。でも、子どもたちはそんな時も頑張っていて、こちらが励まされました。
- ・子どもたちとともに、社会生活について学ぶことができました。一生懸命に子どもたちが活動している様子を見て、私自身が励まされ嬉しくなりました。この活動で学んだことを自分自身のこれからの学びにつなげていきたいと思いました。
- ・子どもたち、ボランティア、地域の方々から様々なことを学びました。あたりまえだけど、ほんとにひとりひとり違っているのが、そのひとがどう考えているのか、視点を変えて推理してみるともっと面白い、自分の中の、保護的になりがちなものも、自分で客観的に注目してみることとなりました。今後の福祉の勉強に活かせたらなと思います。



暑い夏でした。春からの腰痛が完治せず、整骨院通いをしながら、夏の「しごと」体験の活動を行いました。休みたくても休めない…（トホホ）。スタッフたちはそれぞれ夏休みがほとんどない夏を過ごしました。ほうふは、落ち着きがない？動いていないと気がすまない？頼まれると断れない？の人の集まりかな～

ようやく秋がやってきましたが、気温の変化が大きくて、体調を崩す人が続出。秋バテ？夏の疲れをだされませんよう。くれぐれもご自愛ください。

